

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770900258		
法人名	社会福祉法人松籟会		
事業所名	かりゆしぬ村グループホームくつろぎ		
所在地	沖縄県名護市宇茂佐1705-8		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成27年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.katigokensaku.jp/477/index.php?action=kounryou_detail_2014_022_kan=true&ligvosyoCd=4770900258-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成27年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的で温もりのある“ホーム”を目指してご利用者ひとり一人に尊厳と愛情をもって接することを心がけて日々取り組んでいる。ご利用者、職員の立場ではなく人と人との関係作りにも努めている。事業所の理念でもある「生活の継続を維持できるように支援する」をモットーにご利用者が重度になってもご家族や関係医療機関と連携を密にし、最期の時を迎えられるまで支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、自治会に加入して地域とのつきあいを大切にし、地域に根ざした事業所として法人全体の地域貢献事業にも参加しており、災害訓練には毎回近隣住民の参加が得られている。避難訓練を実施した後、「この場所にも避難路があったら安心できるね」という職員の提案により、管理者は法人と相談して避難路を新たに整備するなど、職員の気づきや提案を運営に反映させている。「できる事は自分でやりたい」と居室内を這いずって移動する利用者に対しては、本人が居室を出てから車椅子に移乗する際に職員が支援する等、一人ひとりの思いやニーズを把握し、理念にある「利用者の自律」を重視したケアの実践に努めている。調査当日は、利用者の元気な挨拶で始まり、調査終了後は利用者が表情も豊かに手を振って見送ってくれ、利用者の健やかな姿が確認できた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成27年10月28日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者をどのように支援すれば、「その人らしさの生活」と自律し尊厳をもった生活を送ることができるのか？日々のケアを振り返り実践できるように前向きに職員全員で取り組んでいる。	職員採用時に理念の勉強会を実施し、年度初めにも理念について話し合う機会を設けている。地域に開かれた事業所で、利用者への自律支援、人権の尊厳を基本に理念の実践に努め、職員は理念にたち戻って、ケアの振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居しても、地域で暮していた時と同じ様に地域の友人・知人が気軽に訪れ手作りのおやつや野菜を頂いています。地域の行事等に参加して交流している。	自治会に加入し、地域の福祉祭りやゴーヤー祭りに参加して、民生委員や保育園児との交流もある。管理者がキャラバンメイトで、地域のミニデイサービスの認知症勉強会に参加し、認知症サポーター養成講座が開催できる事を運営推進会議で呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の地域貢献事業の一つでもある地域福祉ネットワークの活動として、認知症の理解の普及に取り組んでいる。区のミニデイサービスで勉強会を行い、認知症ケア専門士と共に参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。地域代表・行政・区長・家族・認知症ケア専門士などが集いご意見を頂いたり、情報交換の場となっている。	運営推進会議は、利用者と行政職員、地域代表が毎回参加して年6回開催され、家族代表や認知症ケア専門士も委員として参加している。免除年度の自己評価や外部評価結果、事故等も報告し、意見交換を行い、議事録は玄関に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者は、運営推進会議にも積極的に参加して頂き、なじみの関係を築いている。介護保険関係などの申請手続きなどアドバイスを受けている。	管理者は空床情報の提供や更新申請時に行政に出向いている。行政の担当者は運営推進会議を通してグループホームについて理解し、相談できる関係にある。担当者は介護保険制度や消防設備に関する見直しの説明、研修案内等で直接事業所を訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に出入りできるように玄関は施錠していない。利用者の状態に応じて見守りを行ったり、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	研修で「日常の職員の行動・態度」から身体拘束に繋がる具体的行為を学び、リスク等については利用開始時に説明している。利用者が落ち着かない時は、見守りや家族の面会を増やしてもらう等、拘束しないケアに取り組んでいる。	

沖縄県（グループホームくつろぎ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修等で学ぶ機会を持ち、不適切なケアが行われないように注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の利用者には、制度が必要と感じられる利用者はいないが、関係機関との橋わたしを行っていけるように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約時に十分な説明を行い疑問点など不安に思っていることなど理解し納得して頂き契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族代表もメンバーとして出席し、意見や要望を頂いている。家族会交流会の中でも、ご家族からの意見要望を聞く時間を設けている。苦情相談窓口についても契約時に説明し、玄関にも掲示している。	隣接する施設の長や第三者委員が定期的に事業所を訪れて利用者の話を聴く機会がある。家族の意見は年4回の家族会交流会も聞く機会としている。「誕生日は自宅で祝いたい」との家族の要望に応じ、送迎を支援するなど、利用者や家族の意向を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の業務の中で随時、職員からの意見や提案を聞き、話し合いを行い早めの対応を心がけている。	管理者は職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、職員は業務の中で気づいたことを提案している。利用者が芋が好きで、牛乳は飲めないがヨーグルトは食べる等の職員の気づきで、手作りヨーグルトや芋をメニューに加え、便秘予防に繋げている。避難路の増設についての提案も運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績のある事業所に対して理事長賞を設けており、昨年職員個々の努力が認められ賞を頂き、職員全員のやりがいにつながった。また、処遇改善交付金の活用や資格手当など就業環境は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内研修等への積極的な参加や働きながら資格取得のためのサポートも行っている。		

沖縄県（グループホームくつろぎ）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県のグループホーム連絡会や地域のグループホームとの交流の中で情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活できるように個々に応じた対応を心がけ、不安なことや心配事などに耳を傾けながら信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の時や電話等で日頃の様子を伝えながら家族が困っていることや要望等を聞き安心していただけるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族から相談を受けた場合、必要としているサービスを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の言葉に耳を傾け、人生の先輩として尊重して共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、家族とゆっくり過ごせるように環境作りに努めている。受診時の付き添いや行事への参加などで協力を頂きながら家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人や家族の意向を大切に馴染みの人との面会や自宅までの外出支援を行っている。大切な人間関係が途切れないように努めている。	馴染みの関係は本人や家族、隣近所の人に聞いて把握している。自宅での誕生祝いで隣近所の人と交流し、地域行事への参加による民生委員や老人会との交流の支援もある。友人が手作り菓子を持参して訪ね、一緒に食べながら祭祀の話をする利用者もあり、関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとりひとりの関係を把握し、利用者同士が関わり、支え合えるように橋わたしを行い支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、面会や見舞いに行ったり、ご家族に会った時は様子を伺ったりしている。これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らし方の希望を把握するため日々の会話の中やご本人の言葉に耳を傾けるように努めている。意思の疎通が困難なご利用者はご家族からの情報を参考にしながら検討している。	利用者の意向は、居室など1対1の場面での会話から聞くことが多い。誰かの役に立ちたいと菜園活動を担っている利用者もいる。把握が困難な場合は、本人が反応できそうな言葉を選んで声かけをし、その時に発する声や表情等で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族に生活歴を聞いたり、サービスを利用していた場合は、関係者から情報を得ながらこれまでの暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、利用者の言動や表情から心身状態の変化を見逃さないように現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきや申し送り、ミーティング等で、意見や本人家族の意向を反映した介護計画になるように努力している。	担当者会議に本人と家族、職員が参加して、個別の介護計画を作成している。計画は職員間で共有し、計画の見直しは契約書では半年に1回と明記されているが、更新時の見直しになっている。モニタリングも更新時で、随時の見直しは確認できなかった。	現状に即した介護計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に支援の内容や日々のできごとを記録し、口頭での申し送りで情報を伝え職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県（グループホームくつろぎ）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅で誕生日を家族と一緒に祝いたいなど利用者の望む暮らしを実現できるようにその時々発生したニーズに対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉まつりなど地域の行事に参加して、民生委員や老人会など地域の方々と交流し豊かな暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、もちろん眼科や皮膚科の受診も本人や家族等の希望を聞き支援している。受診時の送迎は事業所で対応している。家族の都合で付き添いできない時は、職員が付き添うなど、かかりつけ医との連携を図っている。	利用者は馴染みのかかりつけ医を家族と共に受診し、必要時は職員が同行している。訪問診療の利用者がおり、今年度から訪問看護と連携して医療面での相談体制を築いている。必要に応じて、受診共有連絡帳を活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者個々の気づきや、情報を訪問看護師に伝えアドバイスを受けている。訪問看護ステーションと医療連携を結んでいるので緊急時には24時間体制で適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病状を確認するためにご家族と一緒に説明を聞いたり、安心して治療できるように入院中も見舞いに伺ったりしている。円滑に退院できるように医療連携室と連絡を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を作成して、家族へ説明し、同意を得ている。理念でもある、地域での生活の継続を維持できるように関係者と共にチームで取り組んでいる。	契約時に、重度化への対応と看取りに関する指針を説明し、同意を得て看取りに取り組んでいる。訪問診療や訪問看護と連携して、夜勤時等の職員の不安にも対応できる相談体制があり、訪問看護師による研修計画もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがある。事故や急変時にも速やかに対応できるように定期的に勉強会を実施している。業務で勉強会に参加できない職員にはミーティング等で伝達している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している有料老人ホームと連携しての防災訓練を行っている。災害時や緊急時の協力体制ができています。専門業者による消防設備の点検も定期的に実施されている。	昼夜を想定した避難訓練を年2回実施し、毎回近隣住民が参加して利用者を見守っている。3か月毎に防災自主点検を行い、事故対応マニュアルも整備している。避難路が増設され、隣の有料ホーム駐車場の避難場所へ安全に短時間で避難できるようになった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを尊重してさりげない声かけや明るい態度で接するように努めている。一人ひとりその人に合った対応を心がけている。	職員は、研修で「日常の職員の行動・態度」について学び、気になる言葉かけ等については日頃から話し合っている。利用者の呼称は「さん」づけで統一し、本人の写真等は居室に掲示するなどプライバシーの保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現できるように、日々の会話の中から見つけたりささやかなことでも自分で決定できるような場面を作るように働きかけている。意思表示が困難な利用者でも仕草や表情で察するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	中庭にでたり、居室やホールで過ごしたり、その日の体調や気持ちに合わせて自由に自分らしく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している方や、美容院にでかけたりその人らしい身だしなみをしている。買い物にでかけ衣類を購入したりおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるよう行事食や季節の物を献立に取り入れている。食事の準備や配膳などできることは利用者と一緒にやっている。	食事は事業所で調理し、法人の管理栄養士の献立に利用者の要望も入れている。利用者は食材の買い物や野菜の下ごしらえ、味見、配膳等に関わっている。職員も利用者と共に食事を摂り、事業所で育てたゴーヤー等を調理した時は会話が弾むこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、チェック表を利用して把握している。水分は個々の好みに合わせた飲み物を提供し、水分量の確保に努めている。		

沖縄県(グループホームくつろぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療を利用している。週に1回衛生士による口腔ケアの指導も受けている。必要に応じて医師による治療もホーム内にて行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせたトイレ誘導、声かけや介助を利用者ごとに行っている。自力でトイレへ行かれる方はさりげなく見守りをおこない個々に合わせた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、おむつ使用の利用者も2名対応で、トイレでの排泄を支援している。入居時は紙パンツ使用だった方が布パンツに改善した事例がある。尿臭等が気になる場合はさりげなく声掛けし、部屋で着替えさせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日1回、手作りのヨーグルトにあきないようにフルーツを混ぜて提供したり、水分補給の飲み物も種類を変えて飲んで頂いたり、朝食には、繊維質の多いおいもを提供したりと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分を最優先にして入浴していただいている。お湯の温度など個々そった対応で入浴を楽しまれている。	入浴はいつでも対応しているが、特に要望がない場合でも2日に1回の入浴を基本としている。女性利用者には同性介助である。個人使用のシャワーチェアやシャンプーを使い、入浴後はヘアークリームをつけ、カーラーを巻き、整容に配慮する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望に応じて自由に休息している。居室で休まれたり、テレビを見たり、新聞を読んだり個々の生活習慣に合わせてゆったりと過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法を確認できるように処方薬の説明書を個別ケース記録にファイルしている。服薬時には、職員が手渡しして、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者自身の力を発揮できるようにその人に合った役割や趣味など、楽しみを活かせるように働きかけている。農業の経験がある利用者から、ゴーヤなど野菜作りのアドバイスを頂いて収穫の喜びをみんなで共有した。		

沖縄県(グループホームくつろぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の人々と協力しながら自宅や買い物・美容院などに出かけている。日常的には、外気浴を楽しんだり花壇や野菜の手入れ等で外に出る機会を作り、利用者の気分転換につながるよう支援している。	利用者は事業所周辺を散歩したり、庭の草花を眺めて外気を感じている。海を見にドライブに出かけたり、地域の福祉祭りへも参加している。個別の外出は、誕生日を自宅で過ごす、美容室や外食に出かける等、家族やボランティアの協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を所持している方やご家族が管理している方などひとり一人の能力や希望に応じている。お金を所持することで、本人の安心につながるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人・知人からの電話はご本人へ取り次いでいる。定期的にご家族へ近況を知らせる便りやはがきを送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や家庭的な雰囲気を大切にしたい居心地の良い共用空間になるよう工夫している。ホールからでも見えるように玄関の花壇やベランダに花や野菜を植えて四季を感じ心地良く過ごせるようにしている。	共用空間は採光が良く、音にも配慮し、朝は換気をして室温は27度に保っている。利用者は庭のテーブルや廊下の椅子、畳間等で過ごし、居間から手入れの行き届いた庭が眺められる。季節の飾り等は家庭的な雰囲気、居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールや畳み間などを利用してひとり一人それぞれの居場所を設けている。独りになりたいときは、庭を眺めたりできるようベランダにあるデッキを利用したり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の写真や自宅で使用していた使い慣れた物を持ち込んでもらうなどその人らしい居室になるようご家族や本人と一緒に安心して過ごせるよう工夫している。	居室にはトイレとシャワー、ベッド、収納家具が設置されている。利用者は藤の椅子やソファ、テレビ等を持ち込み、家族写真やポスター、カレンダー等を壁に飾っている。家族と共に模様替えや衣替えを行う利用者もあり、居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ひとり一人の身体状況に合わせて、歩行器・杖・車椅子などと使い分けている。居室にコールやセンサーを設置し、できるだけ自律した生活が送れるように安全な環境づくりを目指している。		